

■課題 1 マウスイベントを可視化してみましょう。イベントが発生したら以下のように種類に応じて文字を出力するようにします。

- MouseEvent.MOUSE_MOVED → + 改行なし
- MouseEvent.MOUSE_PRESSED ● + 改行なし
- MouseEvent.MOUSE_RELEASED ○ + 改行なし
- MouseEvent.MOUSE_CLICKED ! + 改行あり
- MouseEvent.MOUSE_DRAGGED △ + 改行なし
- MouseEvent.DRAG_DETECTED ▲ + 改行なし

その他の設定は次のとおりです。参考にしましょう。

ウィンドウのタイトル → マウスイベントの可視化

〔実行例〕

```
→→→→→●△△△▲△△○!  
●○!  
→→→→→→→→→→→●△△△▲△△△△△△△△△△△△△△△△△△○!  
→→→→→→→●○!
```

■課題 2 写真閲覧アプリを作成しましょう。5枚の写真を読み込み、写真の上でマウスポタンが押されたら (MOUSE_PRESSED) 次の写真へ進みます。最後の写真の上でマウスポタンが押されたら、最初の写真に戻ります。

その他の設定は次のとおりです。参考にしましょう。

ウィンドウのタイトル → 画像閲覧アプリ

ヒント 1 : 5枚の写真は Image クラスの配列で準備します。各 Image クラスのオブジェクトは画像ファイルをコンストラクタに渡して次のように生成します。

```
new Image("○○○.jpg");
```

ヒント 2 : 写真の表示は ImageView クラスを扱います。ImageView クラスに写真を設定したり、それを変更するには次のメソッドを利用します。

```
void setImage(Image img){...} // 引数の画像 img を現在の ImageView に設定します。
```

※画像は HP よりダウンロードしてソースファイルと同じフォルダに保存しておきましょう
※おおよそ実行例のような画面になれば OK です

〔実行例〕

